

耳鼻咽喉科

副会長 大滝 一

1. はじめに

2020年3月上旬に当院から新潟市の6例目となる感染者が出た。その報告に加え、当院での検査と予防接種について報告する。症状からみて耳鼻咽喉科医は新型コロナウイルス感染症に罹患した患者と接する機会が多かったのではないかと思う。当院では耳鼻科だからといって特別なことは行っておらず、皆さんとほぼ同様なことを行ってきたつもりである。

新潟市内の耳鼻咽喉科全体としては、多くの先生が検査と予防接種に参加したが、一部には消極的な先生もおられ、残念であった。

2. 市内6例目の経験と検査について

当院では、2020年9月から抗原検査、2021年2月からPCR検査も行っており2023年5月8日までに累計で7,300人に検査を行い、2,108人の陽性者が出た。1日で最も多かったのは2022年11月21日(月)の34人であった。

その中で、なんと言っても当院最初の感染者が大変だった。その方は県内感染第1例目の卓球仲間で、県内1例目が報告された日の2020年2月29日にのどの痛みで当院を初診し、3月6日に再診していた。3月9日、月曜の朝に保健所から連絡があり、その患者さんが陽性であったとのことで、私を含めスタッフ全員が濃厚接触者となるとのことだった。当時は中国の武漢で死者が多く出ているという噂もあり、スタッフに大きな衝撃と不安が広がった。

保健所からの指示で、その患者と少しでも接触の可能性のある受診者の一覧表(約30名)を作り、熱が出た場合は保健所で検査を受けるようにと伝えた。この一覧表作成と電話連絡が大変だった。中には、怒る人や泣き出しそうな人もいて対応に苦慮した。

院内では、診察室、処置室、トイレを消毒、スタッフ全員の毎日の体温チェック、そして翌日にはPCR検査を私が全員に行った。検査はその2週間後にも行い、2回とも全員陰性でス

タッフ一同ほっとした次第であった。

その後は、耳鼻科の治療として必須であったネブライザーは止め、マスク、手袋、フェイスシールドのPPEで車寄せと風除室で検査を行い、頻回の換気、エアータオル中止、非接触型体温計の設置、スタッフには検査手順と患者の対応のマニュアルを作り、HER-SYS、G-MISの入力方法を習得してもらった。

検査は当初の車寄せでは夏はPPEで暑く、冬は寒さと用紙などが風で吹き飛ばされるため、室内で時間を限定して他の患者さんと接触しないように行った。

私と副院長は医院での検査の他に、月に1回ほど医師会のコロナ相談外来に出務し、夏になり急患診療センターでの検査が極めて多くなったため、2022年7月23日(土)の午後と24日(日)の午前に、センターの患者さんを当院で代行して検査を行った。

3. 予防接種

私と副院長やスタッフの予防接種は2021年4月18日に1回目を市役所で受け、その後2023年8月31日までに6回接種している。

市民への1回目の予防接種は、新潟市の10の先行接種医療機関に手を挙げ2021年5月11日から総数50人で先行接種し、一般の接種の受付を5月17日(月)から開始した。17日の朝8時には250人以上の方が予約を取るため医院の周りに並び、その模様はテレビでも紹介されたほどだった。当日は整理券を配り1時間ほどの待ち時間で対応できた。

この予防接種だが、1バイアルあたり6人接種とのことで、当初は1人分でも廃棄にならないように配慮し、1人でもキャンセルがあると知り合いに電話をし、接種に来てもらったほどだ。2023年5月までに約6,000回の接種を行った。

4. 結びに

以上、当院では積極的に検査と予防接種を行ってきた。スタッフは16人中6人が感染したが、感染源は全員家族だった。いずれ新型コロナもインフルエンザと同様に定期予防接種になるものと思うが、今後も有事の際には一耳鼻咽喉科医として積極的対応をと考えている。